[編集・発行] 鹿児島県奄美パーク
鹿児島県奄美市笠利町節田1834
TEL.0997-55-2333
FAX.0997-55-2612
http://www.amamipark.com/

vol.7

# 鹿児島県 奄美パークだより

◇奄美の郷企画事業
◆田中一村記念美術館企画事業
◆奄美パーク応援隊の声
◆わきゃ島自慢
◆常設展示室

写真：沖永良部島・ワンジョ海岸

# 奄美の郷企画事業

## ネリヤカナヤフェスタ

平成17年6月26日に奄美の海の魅力を来園者に紹介するイベントを開催しました。

オープニングは勇壮な道の島太鼓で始まり、フラダンスや島唄漫談の「サーモン&ガーリック」、坪山豊さん(相方皆吉佐代子さん)の島唄で次々とステージが盛り上がりました。

また、会場内のレクチャールームにおいては、折り紙コーナーを設けて「世界でひとつの水族館をつくろう」と題して、子供たちがそれぞれの感性で作品を完成させました。

奄美パーク応援隊による「島ジュウリ(料理)展示・試食コーナー」も初めて開催され、訪れた人は懐かしい味に舌鼓を打っていました。

## サマーコンサート

平成17年8月21日に~古来から今ぬ世へPART4~として、多くの観光客や帰省客などが訪れる夏休みに、島唄や奄美芸能等で構成されるイベントを開催しました。

奄美高等学校郷土文化研究部「太陽の子(ティダヌクヮ)」で開演。

地元唄者9人が唄掛けを披露しました。また、教訓歌や奄美市名瀬以北の「北節(かさん唄)」と奄美市住用町以南「東方(ヒギャ)節」の歌詞や曲調の違いを紹介しました。

## 文化講演会

平成17年10月15日に笠利町招魂祭相撲大会100周年を記念して「それぞれの相撲道」をテーマに元大相撲力士・舞の海秀平さん、元アマチュア横綱・禧久昭広さんを招いてトークショーを開催しました。

笠利少年相撲クラブの藤田蓮太郎くん、響くん兄弟の島唄に続き、かつて高砂部屋に入門していた山下恭宏さんが相撲甚句を披露しました。

トークショーでは、宮崎園長が司会を務め、大学時代で同期の二人の生い立ちや当時の苦労話などを聞くことができました。また、今後の夢について、舞の海さんは「自分が培った相撲を若い人に伝えたい」、禧久さんは「良い選手を育てていきたい」と話し、別々の相撲道を歩みながらも、相撲文化を伝えたいという共通の思いを披露し、小兵で鳴らした二人の元力士の軽快なトークに会場からは笑いが絶えませんでした。

# フユウンメコンサート

平成17年12月18日に冬の訪れにちなんだクリスマスソング等の演奏会を開催しました。赤木名中学校、笠利中学校、龍南中学校の吹奏楽演奏、我自由丸Sのアカペラコーラスやジョイ洋子With沖縄アンサンブルによるジャズ演奏を披露しました。

# 初春　唄あしび

平成18年1月3日、多くの観光客や帰省客などが訪れ、島唄や奄美伝統芸能で構成されるイベントを開催しました。

坪山豊さん、潤さつきさん、前山真吾さん、山下聖子さん、皆吉佐代子さん、平早代美さん、中ほず美さん、中孝介さんの8人がそれぞれ島唄を披露し、笠利町の節田マンカイ保存会が旧正月の伝統行事「節田マンカイ」を披露して正月気分を盛り上げました。

# 奄美パーク春まつり

平成18年2月19日に奄美群島の各島ジマの伝統芸能等を披露する「島ジマの響演」を開催しました。

阿世知三味線教室の島唄で幕を開け、玉城流敏風会による「琉球舞踊」、集落ぐるみで継承されている大和村大和浜の「棒踊り」や龍郷町秋名・幾里集落の「相撲甚句」などを披露し、最後は奄美八・六会による八月踊りと六調で賑やかに締めくくりました。

平成18年3月5日には春まつり第二弾として、桃の節句にちなんで女性だけの出演者で構成したサンガツサンチを開催しました。龍郷町の荒波太鼓がオープニングを飾り、奄美芸能島唄研究会の島唄や藤川澄華祥舞踊教室があでやかな舞を披露し、知名町の鳴子DEセリョーサは息の合った「よさこいソーラン節」で会場を熱気に包みました。

また、出演者最年少の住姫乃さん、平田まりなさんの子供島唄にも盛んな拍手が送られました。

## 5月ライブステージ

平成17年5月15日に名瀬市文化協会の会員約100人が出演し、盛りだくさんのプログラムで観客を楽しませてくれました。

## 7月ライブステージ

平成17年7月17日に龍郷町島唄保存会による島唄や新民謡・踊りが披露されました。

## 9月ライブステージ

平成17年9月18日にノブ&マスト、GUMBO(ガンボ)、中村瑞希さん・吉原まりかさんの3組がジャズ、ロック、島唄などさまざまな音楽を披露しました。

## 11月ライブステージ

平成17年11月13日に大笠利わらべ島唄クラブ、奄美芸能七色会が出演し、島唄・新民謡・歌謡曲やフラダンスなどを披露しました。

## 1月ライブステージ

平成18年1月29日に「第3回 奄美島唄(かさん唄)への誘い」として笠龍地区民謡保存会会員が島唄を、宇宿小学校児童が「稲すり踊り」を披露しました。

## 3月ライブステージ

平成18年3月12日に民謡日本一を受賞された、築地俊造さん、当原ミツヨさん、松山京子さん、中村瑞希さんの4名の方々をお招きし、「日本一の響演」と題して島唄を披露しました。

# 田中一村記念美術館企画事業

## 「染める・織る・創る」3る展

平成17年7月26日から8月14日まで奄美市笠利町在住の植田正輝さん、奄美市名瀬在住の内山初美さんと乾喜代子さんの3人による個展を企画展示室で行いました。

植田さんは、奄美の天然素材にこだわった植物や海草、赤土を使用し独特な風合いを持つ作品や訪問着など20点を展示しました。内山さんは、島にある素材を使った藍染めや泥染めによるコートやワンピースなど43点を展示しました。

乾さんは、アイデアがたくさん盛り込まれているオリジナルバッグや財布など25点を展示しました。

## 「西村兼武・則彦親子写真展」

平成17年8月16日から9月4日まで知名町在住の西村兼武さん、則彦さん親子写真展を開催し、奄美の島々の各種行事・風景などをテーマとした写真50点を展示しました。

西村さん親子の写真には奄美独特の光景が映し出され、大勢の方々が懐かしさや癒しのひとときを堪能しました。

## 「奄美の風」東條新一郎展

平成17年12月4日から12月25日まで、鹿児島市在住の洋画家東條新一郎さんの作品展を企画展示室で開催しました。

今回はパリ留学で培った才能を発揮し、ここ数年の大作『奄美の風』など25点を展示し好評を博しました。

また、開催記念として親子スケッチ大会も行い、30人が参加し専門的な指導を受けました。

## 「路-MICHI-」福永代志時写真展

平成18年1月2日から22日まで福永代志時写真展を開催しました。写歴30年にわたって世界各地を撮影した作品『路-MICHI-』など20点、広告ポスターでグランプリを受賞した作品等15点を展示しました。

また、開催記念として『ギャラリーコンサート』があり、福永さんの後輩にあたる笠利小・中学校の児童生徒などが島唄を披露し、癒しのひとときを島唄と写真のコラボレーションで楽しみました。

## 一村シンポジウム

平成17年9月11日、開館4周年記念として一村シンポジウム『奄美での田中一村を語る』を開催しました。

宮崎緑館長がコーディネーターを務め、俳優の榎木孝明氏、画家の加藤晋氏、前村学芸専門員がパネラーを務めました。

一村の作品や思い出、奄美での生き様など自身が思っていることを語り合いました。

また、当日から10月2日まで企画展示室で『一村の眼差し逆光の妙』～一村が撮影した写真展～を開催しました。奄美時代に一村が撮影した作品50点を展示し、一村の象徴する逆光のとらえ方は、植物や風景など自然のすごさをうまく表現し大きな反響を呼びました。

## 創作体験教室

### 1 風景画講座

平成17年9月25日、創作体験教室・風景画講座を開催しました。当館の前村学芸専門員の指導のもと「あやまる岬」で景観スケッチし、参加者は個々の技法などを取り入れたり丁寧な作品が完成しました。

### 2 人物画講座

平成18年1月29・30日の二日間、二科会会員の西健吉先生を講師に招き、人物画講座を開催しました。

講師の説明後、前半はクロッキーをした後油絵・水彩で制作し、受講生は真剣な表情でキャンバスに向かい作品を仕上げました。

## 第4回奄美を描く美術展

奄美の風物をテーマとし、全国の美術を愛好する方々が奄美を訪れ、地域の風物や文化に接する機会を提供するとともに、奄美の文化振興、観光の発展に寄与することを目的として第4回奄美を描く美術展を開催しました。

北は宮城から南は鹿児島まで全国各地から出品者70名、作品105点の出品があり審査の結果、奄美を描く美術展大賞は鹿児島市在住の丸山良二郎氏が受賞されました。

審査員からは、「年々作品のレベルが上がり、それぞれ見応えのある個性的な作品が集まり充実した展覧会になりました」と講評をいただきました。

## 芸術文化講演

平成17年11月3日、ルーブル美術館等公式美術ガイドのモワンヌ前田恵美子さんを講師に招き、『フランス・パリの文化状況と日本美術への関心』～田中一村はパリで評価されるのであろうか～をテーマに文化講演を開催しました。

講演の中でモワンヌさんは「一村の作品はヨーロッパでも十分通用します。一村の絵には、自分・自然・奄美の本質など奄美の色を自然体で描いており、奄美でなければ傑作は生まれなかった」と話されました。

また当日は大島北高校の情報処理科の生徒がパソコンを使った手際のよい要約筆記で講演内容が聴衆の眼前の画面に映し出され、好評を博しました。

# 奄美パーク応援隊の声

泉　正一

序文

奄美パークの所在地は、以前は「マザキ」という鬱蒼とした人が寄りつきがたい森でした。小生の伯父の所有地であったため親に注意されていた。よく事情を聞いてみると夜になると魔物（ケンムン）がでるとか…。その後旧奄美空港ができ、そして紆余曲折をへて平成13年9月30日に奄美パークがオープンしたわけです。

その下方の集落は小生が生まれ育ったところで太古から伝承されているエピソードが各所にあります。まず、奄美パークのすぐ下に神道川と云うノロ神が通ったところ、トネ屋敷、ニヤ屋敷、ノロ墓地、ノロ屋敷など数カ所が現在でもあります。T字路の神道のつきあたりには「石敢当」なるものもあります。

1　奄美の島建の神話

奄美パークから北側に平伏す120～130メートルの山が見えますが、この山の頂に「女神阿摩美姑」と「男神志仁礼久」の二神が「最初天降地」という石碑が建立されています。この山は通称「奄美岳」と呼んでいます。明治34年（1901）に建立された石碑には「阿摩彌姑最初天降地」と彫り込まれています。アマミコ、シニレクの天降りの地については、これまでにこの笠利と宇検村の湯湾岳との二説が郷土史誌の中で論ぜられてきた経緯があります。しかし、先の伝承に見るように、こうした背景を統合すると今では笠利から湯湾への神の移動が語られています。

現在はこの石碑建立の発起人9名の名前がそこに残されています。「朝仲明」「朝慶次郎」「山田末熊」「東清和志」「東浦静」「加石太郎」「島名弥吉」「泉貞與喜」「島名半五郎」節田村村中。これらの名前に挙げられた「各ヒキ」（注）は富豪であったのでしょう。

2　奄美姑（阿摩弥姑）神社について

奄美岳から裾野を500～600メートル位降りると集落の奥に小高い丘があります。そこが氏神として太古から、集落民はもとより校区民が安全祈願、また、六月燈や祭りも盛大に行われています。戦前は遠路はるばる他町村から祈願のため参拝者が絶えなかったようでしたが、現在は集落民だけになっています。ちなみに祭日は9日、19日、29日になっています。

（注）ヒキ　祖先との関係に基礎をおく血縁概念。血筋。

# 田中一村の晩年の代表作「奄美の杜⑥～クワズイモとソテツ」が寄託されました。

平成18年6月22日（木）に田中一村が「閻魔（えんま）大王への土産」と語った大作「クワズイモとソテツ」が一村と親交があった宮崎鐵太郎さんより寄託され、現在常設展示室において一般公開しています。特別展の開幕を記念して、同日オープニングセレモニーを開催し、奄美市立節田小学校の5・6年生を招待して、クワズイモの記念植樹と一村会会長の美佐恒七さんによる講話と前村卓巨学芸専門員の解説を交えて、館内を見学し、児童らは「絵の中の色彩がすばらしく迫力がある。誰にも真似できない才能があり魅力的な絵」など感心した様子で鑑賞していました。また、6月25日（日）には、寄託記念講演会及び鑑賞会を企画展示室で開催し、一村の甥にあたる新山宏さんが「叔父、一村の思い出」と題して講演しました。

# ウキヤ島自慢

## 守護神の鎮まる森（天城町）

天城町瀬滝集落場の永岡商店より東側に約500メートルの地点に、高さ50メートルの小高い森（拝み山）があり、その頂点にテラがある。

テラの登り口に、平成4年3月吉日に「未来を創る文化財ウオッチング瀬滝子供会文化財少年団」によるテラの由来の説明板が設置されている。それによると有史以来、拝み山で悪霊を追い払う神祭りが行われていた。

一説によると、徳之島が琉球に服属していた頃から女神職による祈願があり、奄美が薩摩藩の統治下になると女神職の追放の厳達で祭り事が途切れた。

慶応になった頃、牛馬が次々と倒れ農作業に支障がでてきたので、集落の長老によってある神社の分神が叶えられ、拝み山に御神体を鎮めることになった。

明治の中頃になり、秋の彼岸祭りが行われ、五穀豊穣・無病息災・海上安全・合格祈願などを受け止める守護神の鎮める森となった。

私たちの祖先が、長い歴史の中でかかわりを持ち続けた貴重な文化財として語り継がれている。

ご神体

拝み山

説明板

「奄美の杜⑥～クワズイモとソテツ」

# 寄託記念特別展

■展示期間
平成18年6月22日(木)～平成18年9月19日(火)

田中一村は50歳の時に奄美に移り住み、紬染色工として生計をたて、蓄えができたら絵を描くという生活を繰り返し、名瀬市有屋の借家で、誰からも看取られず69歳の生涯を終えた。今回、宮崎鐵太郎・冨子夫妻から、一村の代表作「クワズイモとソテツ」が寄託されたことを記念して特別展を行います。

## 常設展示室1

### 幼年期～青年期・明治41年(1908年)～昭和13年(1938年)

◆大人顔負けの天才的な画才を現した10代の時の色紙

| 画　題 | 種　類 | 制作年代 |
|---|---|---|
| ハマグリ | 色　紙 | 大正 7年(1918年、10歳) |
| 天下第一春 | 色　紙 | 大正10年(1921年、13歳) |
| 喜呈芳色 | 色　紙 | 大正13年(1924年、16歳) |
| 書 | 色　紙 | 昭和 2年(1927年、19歳) |

◆個人からの依頼で、約20点程の南画作品の模写を行っている。
作品には倣うという点意味で「倣‥」と入れてあるが、確かな技量が感じ取れる作品。

| 画　題 | 種　類 | 制作年代 |
|---|---|---|
| 倣蕪村② | 軸　装 | 昭和22年以降(1947年、39歳以降) |
| 倣木米① | 軸　装 | 昭和22年以降(1947年、39歳以降) |

### 千葉寺時代・昭和13年(1938年)～昭和33年(1958年)

◆30歳で千葉に移り住み、50歳で奄美に渡るまでの20年間、農業をしながら身近な風景や自然を描いた。

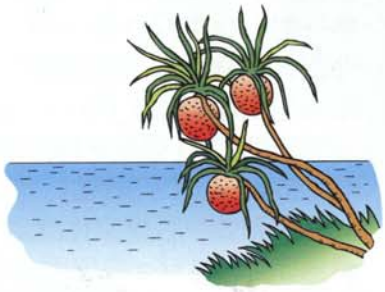
| 画　題 | 種　類 | 制作年代 |
|---|---|---|
| 麦　播 | 小色紙 | 昭和19年頃(1944年、36歳) |
| 牛車と農民 | 色　紙 | 昭和20年頃(1945年、37歳) |
| 山の田 | 色　紙 | 昭和21年頃(1946年、38歳) |
| 轉り | 色　紙 | 昭和22年頃(1947年、39歳) |

◆米邨と名乗っていた頃の南画の作品。多くの作品が残っている。

| 画　題 | 種　類 | 制作年代 |
|---|---|---|
| 山水図 | 軸　装 | 大正14年(1925年、17歳) |
| ソテツとツツジ | 軸　装 | 大正15年(1926年、18歳) |
| 蕗の蓋とメダカの図 | 軸　装 | 昭和 6年(1931年、23歳) |

◆軍鶏師の注文に丹精込めて描いた襖絵。

| 画　題 | 種　類 | 制作年代 |
|---|---|---|
| 花と軍鶏 | 襖　絵 | 昭和28年(1953年、45歳) |



## 常設展示室2

### 千葉寺時代・昭和13年(1938年)～昭和33年(1958年)

◆30歳で千葉に移り住み、50歳で奄美に渡るまでの20年間、農業をしながら身近な風景や自然を描いた。

| 画　題 | 種　類 | 制作年代 |
|---|---|---|
| 素描・ザクロ | 額　装 | 昭和20年代 |

◆百姓と見まごうばかりの千葉寺の生活、身近な自然を描いた作品。

| 画　題 | 種　類 | 制作年代 |
|---|---|---|
| 千葉寺・農家の庭先 | 額　装 | 昭和20年代 |
| 千葉寺・雪の日 | 額　装 | 昭和20年代 |
| 黒牛図 | 額　装 | 昭和20年代 |

### 九州・四国の旅　昭和30年(1955年)

◆旅先を描いた作品は明るく躍動感にあふれ、奄美行きのきっかけともなった。

| 画　題 | 種　類 | 制作年代 |
|---|---|---|
| 青島の朝 | 色　紙 | 昭和30年(1955年、47歳) |
| ハマユウとヒギリ | 色　紙 | 昭和30年(1955年、47歳) |
| 室戸岬 | 色　紙 | 昭和30年(1955年、47歳) |
| 九里峡 | 色　紙 | 昭和30年(1955年、47歳) |

### 一村の描いた鳥(千葉寺時代)

◆「千葉時代」に描かれた鳥。家には多くの鳥を飼い、愛情を注いでいた。

| 画　題 | 種　類 | 制作年代 |
|---|---|---|
| ミヤマホオジロ | 額　装 | 昭和10年代 |
| 新緑にトラツグミ | 額　装 | 昭和10年代 |
| 柿にカケス | 額　装 | 昭和20年代 |
| ニンドウにオナガ | 額　装 | 昭和31年頃(1956年、46歳頃) |

### 奄美の一村　昭和33年(1958年)～昭和52年(1977年)

◆奄美時代の色紙

| 画　題 | 種　類 | 制作年代 |
|---|---|---|
| 奄美客舎 | 色　紙 | 昭和30年代 |
| 奄美の花 | 色　紙 | 昭和40年頃(1965年) |

◆綿密な写生を繰り返した「素描」

素描・鳥⑤　素描・鳥⑦　素描・エビ②
素描・エビ③　素描・魚①

## 常設展示室3

◆奄美の自然を描き、一村芸術が華開いた作品の数々。奄美の杜シリーズは11点、その他の大作も含めても16点しかないため、作品保護のため複製と交互に展示している。

| 画　題 | 種　類 | 制作年代 |
|---|---|---|
| ソテツ残照 | 額　装 | 昭和40年代：複製 |
| ダチュラとアカショウビン | 額　装 | 昭和42年代(59歳)：複製 |
| 奄美の杜④～草花と蝶～ | 額　装 | 昭和40年代：複製 |
| ユリと岩上のアカヒゲ | 軸　装 | 昭和30年代 |
| 花と鳥 | 額　装 | 昭和40年代 |
| 花と鳥(未完) | 額　装 | 昭和50年頃(1975年、67歳) |
| エビと魚 | 額　装 | 昭和51年頃(1976年、68歳) |

◆「この絵だけは誰にも譲れない、閻魔大王へのお土産なのですから…」と一村が語った2点。
この内の「クワズイモとソテツ」が宮崎鐵太郎・冨子夫妻から「奄美で見て欲しい」「奄美の人に見せて欲しい」とのメッセージを添えて、この度寄託された。

| 画　題 | 種　類 | 制作年代 |
|---|---|---|
| アダンの木 | 額　装 | 昭和47・48年(64・5歳)複製 |
| 奄美の杜⑥「クワズイモとソテツ」 | 額　装 | 昭和47・48年(64・5歳) |

# ～お知らせ～

## 鹿児島県奄美パーク・田中一村記念美術館イベント案内
## 〈平成18年8月～平成19年3月〉

### 1．奄美の郷イベント広場

- 奄美の郷ライブステージ……10月22日(日)・11月26日(日)・3月11日(日)
- サマーコンサート…… 8月20日(日)
- 文化講演会…… 9月24日(日)
- フユウンメコンサート……12月17日(日)
- 初春唄あしび…… 1月 3日(水)
- 奄美パーク春まつり
  島々の饗宴…… 2月18日(日)
  サンガツサンチ…… 3月 4日(日)

### 2．田中一村記念美術館企画展示室

- 重村三雄「奄美の風景展」……8月 6日(日)～27日(日)〈8／6講演会〉
- 親子スケッチ大会…… 8月27日(日)
- 開館5周年記念「一村のデッサン展」……9月 3日(日)～9月18日(月)
- 一村シンポジウム…… 9月10日(日)
- 創作体験教室（風景画）……9月17日(日)
- 開館5周年記念「坂口 登 洋画展」……9月23日(土)～10月14日(土)
- 第5回記念「奄美を描く美術展」……11月 3日(金)～23日(木)
- 「奄美を描く美術展」
  表彰式・芸術文化講演……11月 3日(金)
- 第8回一村ジュニア展…… 11月26日(日)～12月17日(日)
- 福永代志時ポスター展……12月23日(土)～1月8日(月)
- 第2回こども美術探検……1月 7日(日)
- 河原多美子「クレイアート展」……1月14日(日)～28日(日)
- 美術講演…… 2月 4日(日)
- 山久ひろお・清宮健二「大島海峡写真展」…2月 4日(日)～18日(日)
- 創作体験教室（人物画）……2月24日(土)～25日(日)
- 奄美・横浜交流「遊展」…… 3月 4日(日)～18日(日)

**第2回** 新緑～紅葉スケッチコンクール　参加・応募期限…10月9日(月)

# 奄美パークだより


〒984-0504　鹿児島県奄美市笠利町節田1834
■奄美パークホームページ　http://www.amamipark.com/
■奄美の郷／TEL.0997-55-2333　FAX.0997-55-2612
■田中一村記念美術館/TEL.0997-55-2635　FAX.0997-55-2613


■開園時間／9：00～18：00（7･8月は9:00～19:00）
入園は、開園時間の30分前までです。
■休　園　日／毎月第1及び第3の水曜日（祝日の場合は翌日）
〈4月29日～5月5日、7月21日～8月31日は開園〉
■施設観覧料／奄美の郷、田中一村記念美術館共通観覧料
大人…400円、高校・大学生…280円、
小・中学生…200円、幼児（小学生未満）…無料

奄美パーク周辺マップ